

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.90

2007/05/25

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

保全作業の成果次々と・・・



保全作業の効果が著しい昨秋の保全作業地 (07/05/22)

今年度から定例化した第3土曜日の保全作業。5月は作業に参加していただいた会員数は過去最多となりました。ところで保全作業も成果が肉眼的に見えないと今一ハッスルできないのですが、効果は抜群です。左の画像は、昨年10月31日に「山門老人会」の方々と一緒に作業した中央と北部湿原の間の現在の状態です。



刈り取り作業中の状況 (06/10/31)



水路に広がるヒルムシロ (07/05/22)

下の作業中の状況と比べればその効果が如何に凄まじいかわかります。イヌツゲを中心とする灌木で被われた湿原表面に

は日射が届かず惨憺たる状態でした。が現在は日射量も十分で水路には青息吐息だったヒルムシロが、オオミズゴケの上には一時絶滅寸前だったクサレダマがその分布を拡大しています。また視覚的にも作業前と後では湿原のどちらがより健全かが一目瞭然です。しんどい仕事ではあるが、やってよかったというのが参加者の皆さんの一致した声です。北部湿原を含めた湿原が、何年か後には全面このような状態に復元できるよう頑張りたいものです。もちろん自然の復元力はある段階で、一気に加速するので、長い年月を考えると「賽の河原」的作業の繰り返しが必要になるのは当然と考えねばなりません。

6月16日(土)の保全作業には、「淡海森林クラブ」「ローソン社会貢献メンバー」も参加していただけます。本会会員の皆様も多数ご参加頂きますようお願いいたします。



分布が拡大したクサレダマ (07/05/19)



クロスジギンヤンマの羽化 (07/04/28)



シオヤトンボの羽化 (07/05/04)



ダビドサナエ (07/05/21)

2003 年 3 月から整備し始めた付属湿地も年々湿地としての条件が整ってきたのか、生息生物の種類も増加し、その数も増加している。中でもトンボ類の定着は目覚ましく、間近で生活史が観察できるのは観察者にとってはヨダレである。



クロスジギンヤンマ (07/05/21)

察では、3 日間にわたって観察できた、クロスジギンヤンマの羽化とシオヤトンボの羽化、ダビドサナエが確認できたことである。いずれの羽化についても、会員がビデオ撮影も実施した。このうちシオヤトンボは 5 月 4 日に一斉羽化が始まり羽化は 1 週間続いた。多い日には 17 個体もが羽化し足の踏み場もないほどになった。クロスジギンヤンマは、開水面のヒメ



抱接するトノサマガエルと卵 (07/05/19)

月初旬には花を咲かせるはずである。

が問題が無いわけではない。4 月の芽だし以降繰り返し除去に躍起になっている外来種の存在である。ここに来て生育が早まり、またまた目立つようになってきた。

6 月の保全作業日には、多くのご参加がいただけるようなら一部は、この除去作業にかかりたいものである。生業が成り立っていない地域の保全には、多くの労力と資金が必要なのだが、4 月以降来訪された皆様からは保全作業へのご理解を頂き多くのカンパも頂戴しています。これも本会の力の源泉にもなっています。

6 月に入るとササユリ、コアジサイ、ヤマボウシ等が開花します。ご家族でお出かけ下さい。

今年のこれまでの観

クロスジギンヤンマ (07/05/21)
 察では、3 日間にわたって観察できた、クロスジギンヤンマの羽化とシオヤトンボの羽化、ダビドサナエが確認できたことである。いずれの羽化についても、会員がビデオ撮影も実施した。このうちシオヤトンボは 5 月 4 日に一斉羽化が始まり羽化は 1 週間続いた。多い日には 17 個体もが羽化し足の踏み場もないほどになった。クロスジギンヤンマは、開水面のヒメガマで大部分が羽化した。昨年からヒメガマが増加しているのだが、このことを考えて除去するのをひかえていた。がどうやら増えすぎ今年是一部除去する必要があるそうである。トンボの他にはマムシ、シマヘビ、アオダイショウも活動中である。カエルは、現在姿を見せしているものは、シュレーゲルアオガエル、アマガエル、トノサマガエル、タゴガエルである。このうちトノサマガエルの抱接と産卵した卵 (左の画像の矢印) がこれまた間近で観察された。植物も咲き終わったミツガシワをはじめノハナショウブ、サワギキョウ、サワシロギク、ヒツジグサ、キセルアザミ、ジュンサイもその分布範囲を拡大している。昨年種子から育種して植栽したクサレダマも順調

に生育し 7



5 月の保全作業で湿原らしさが倍加 (07/05/19)

付属湿地で生物多様性を
 間近に観察